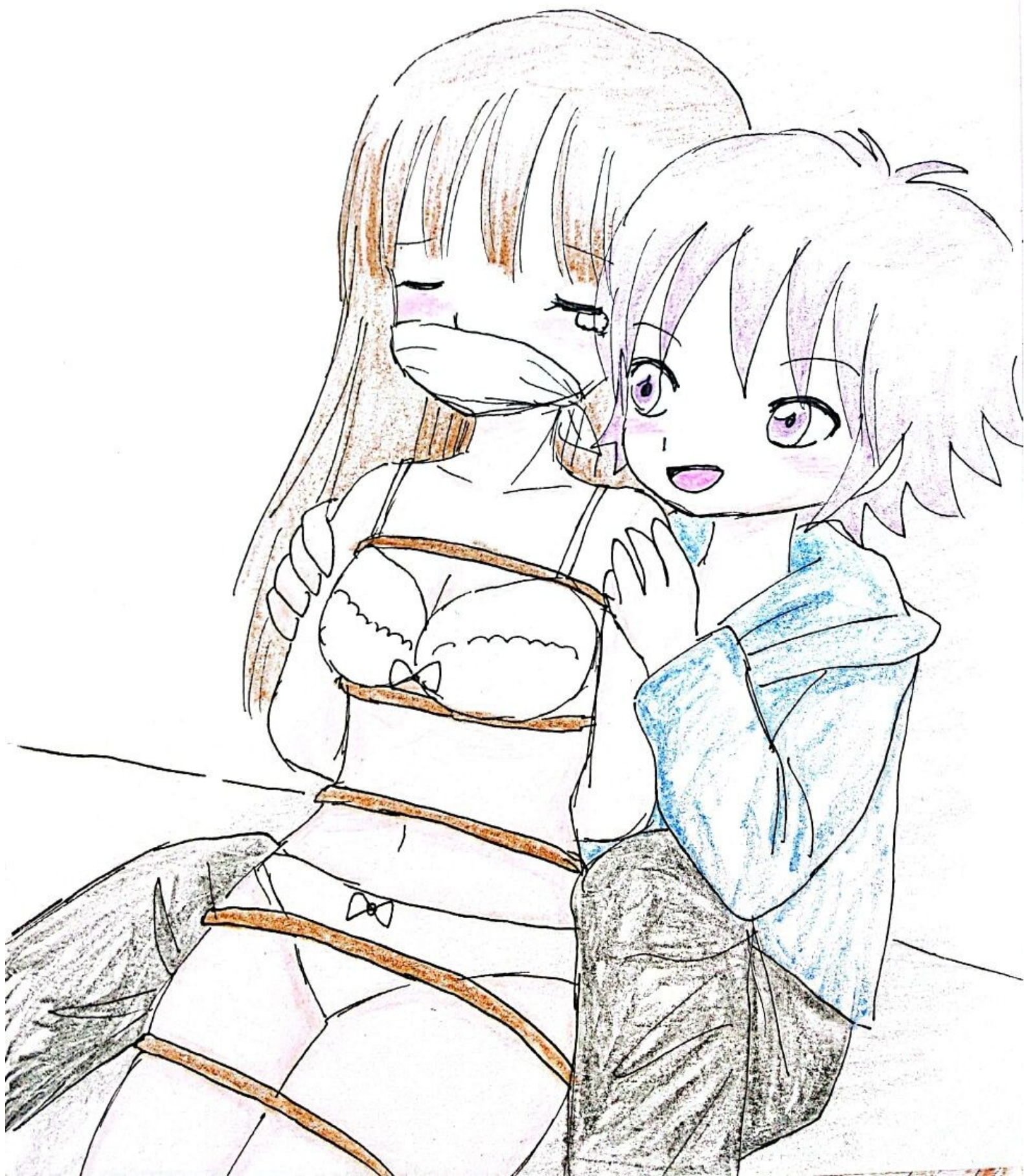


姉ちゃんは僕のもの



姉ちゃん...

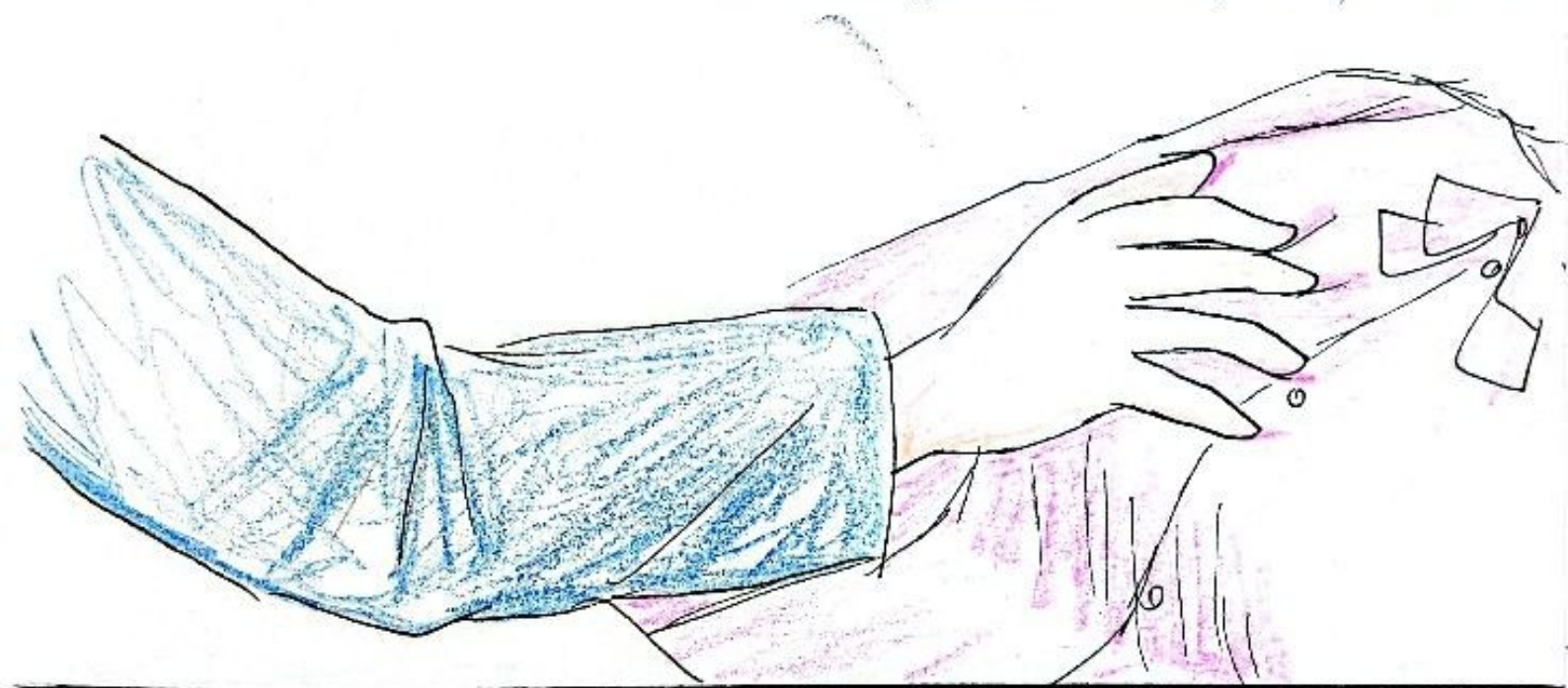


ねえ...?

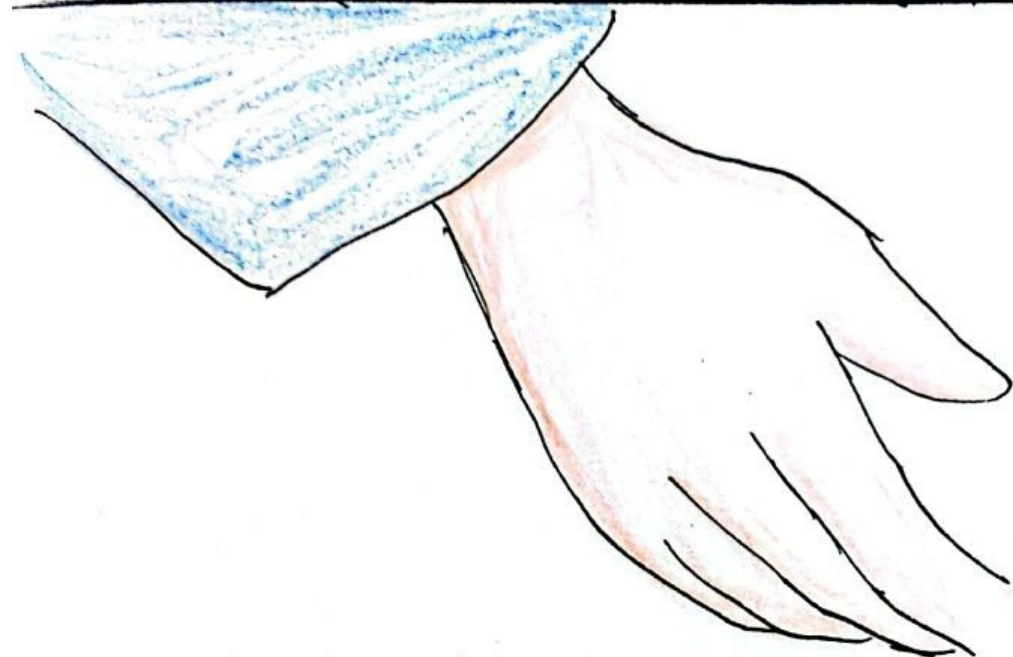


姉ちゃん...
すきだよ









< 54



次の日 姉ちゃんは
僕から逃げるように
ごかけこいた

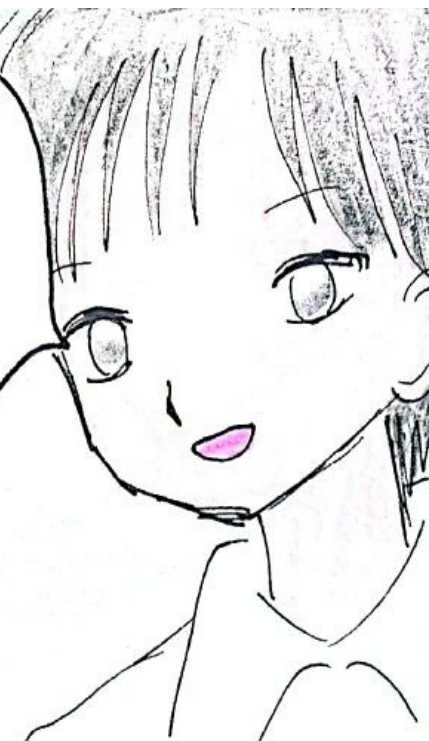


僕はあとを
つけた





どうしたの?
何か
あった?



あのね...
じつは...私の弟...



ちょっとまったー!!

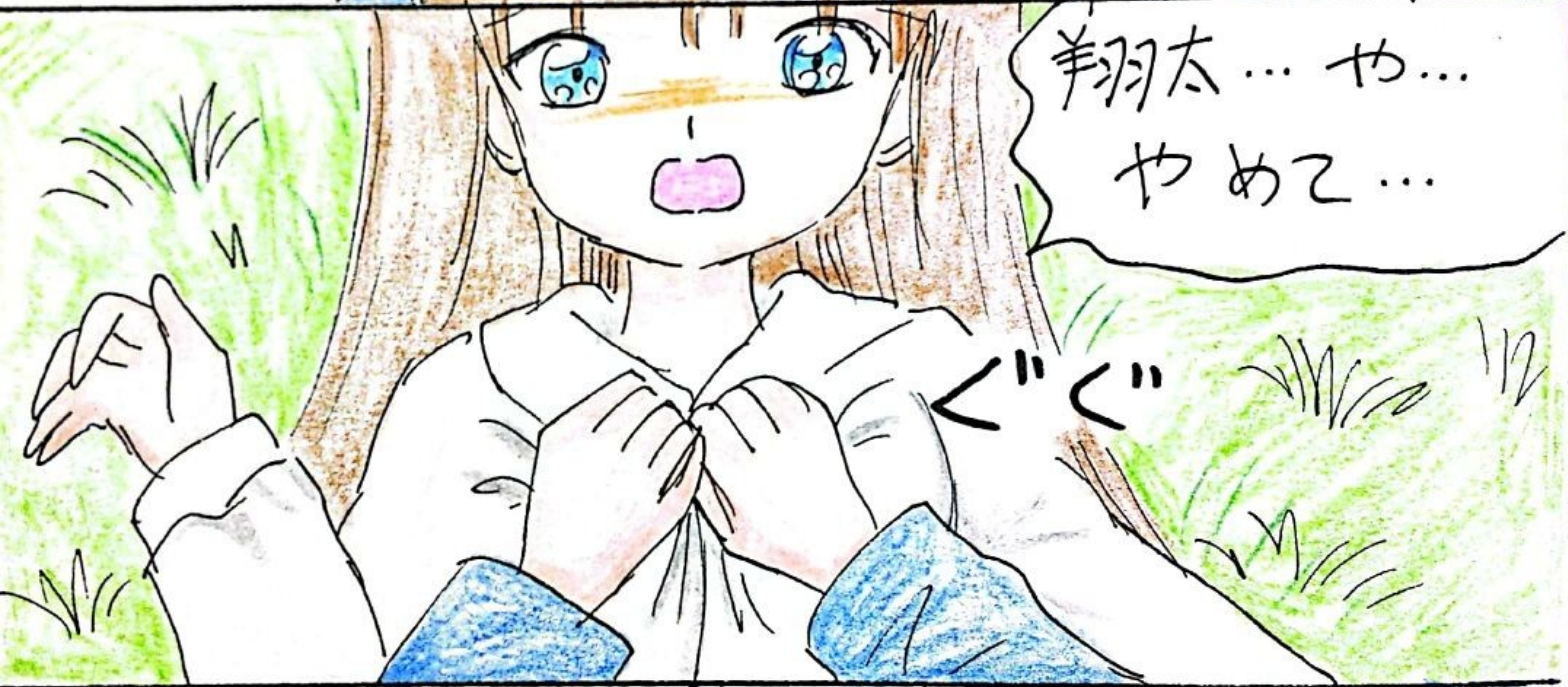


お前だ"れた"よ!
おれの女に
近づくな!!





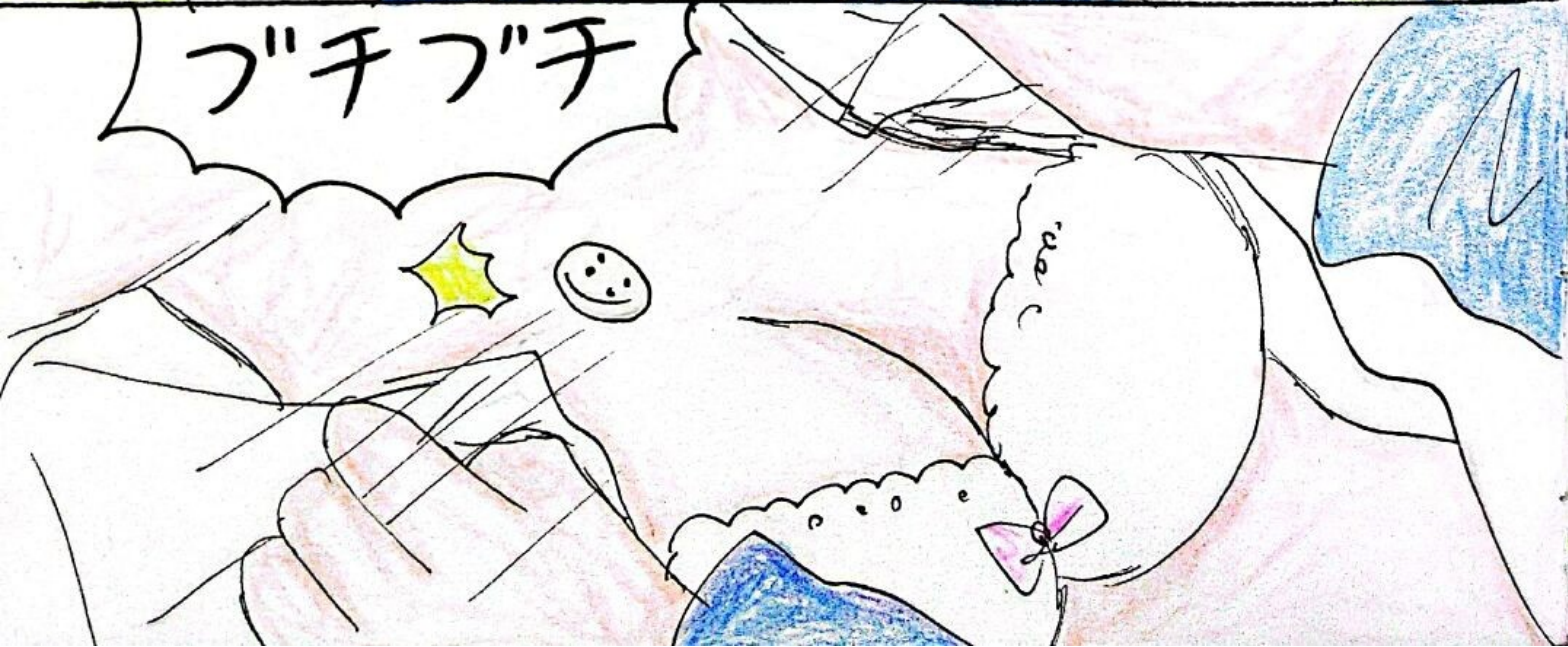
どうして男と会ったり
するんだよ！
あれほど
僕以外の男
と会うのは
禁止だって
言ったのに！



翔太... や...
やめて...

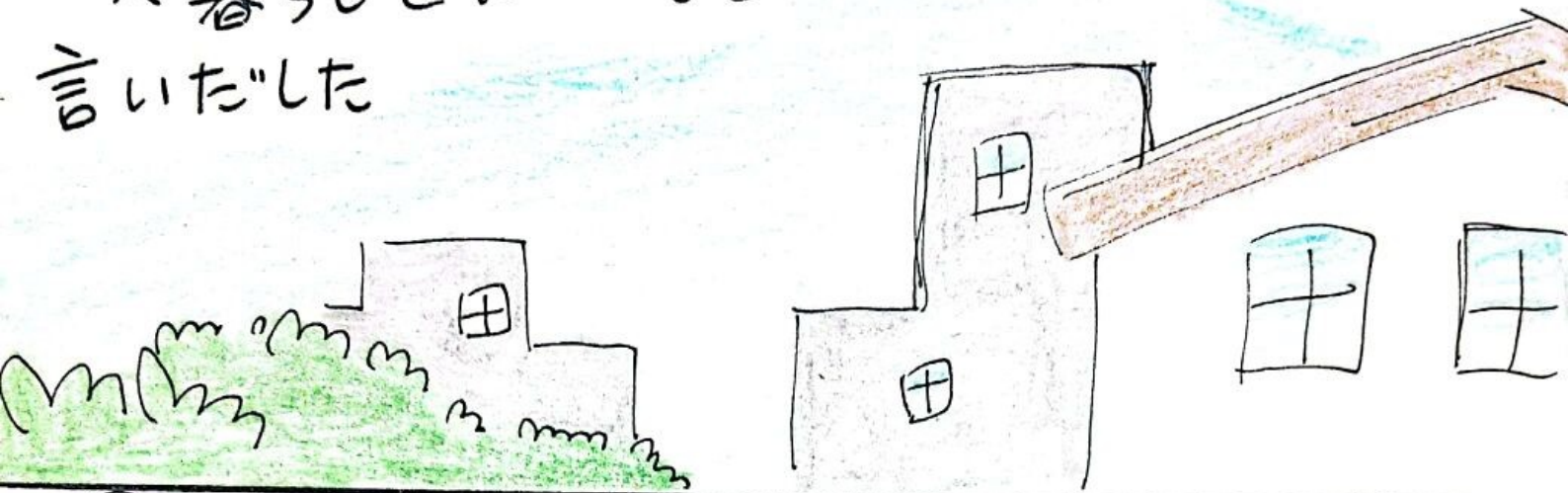
ぐ ぐ

ブチブチ





ある日姉ちゃんは一
人暮らしをはいめると
言いたした



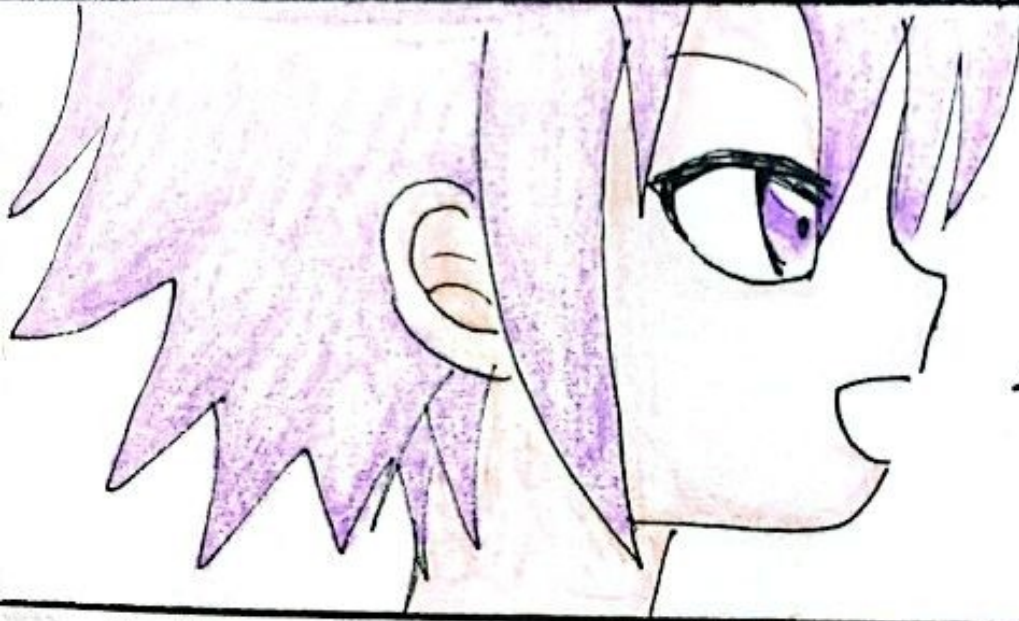
僕には住所を
おしえてくれなかった



姉ちゃんがでていったあと
僕は母さんに
住所をきいた

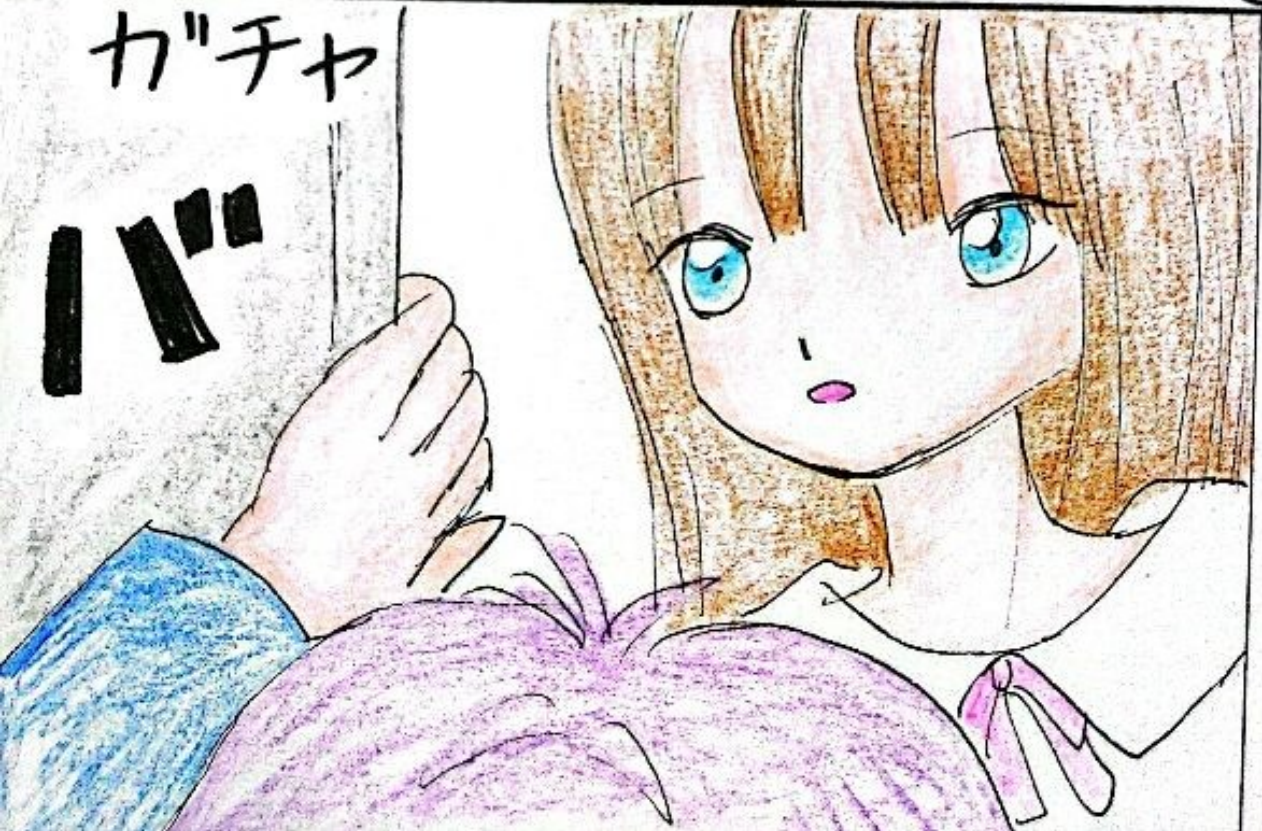


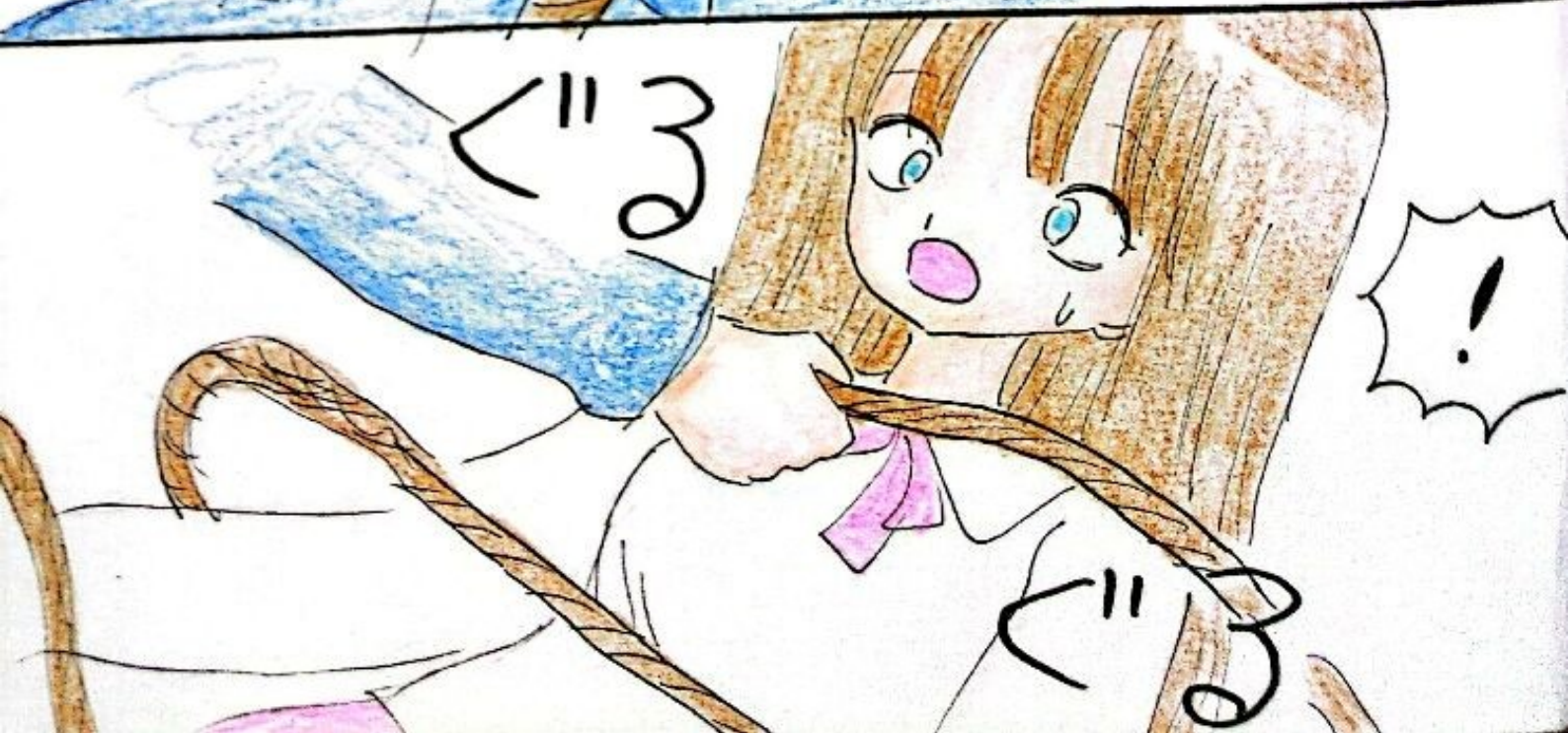
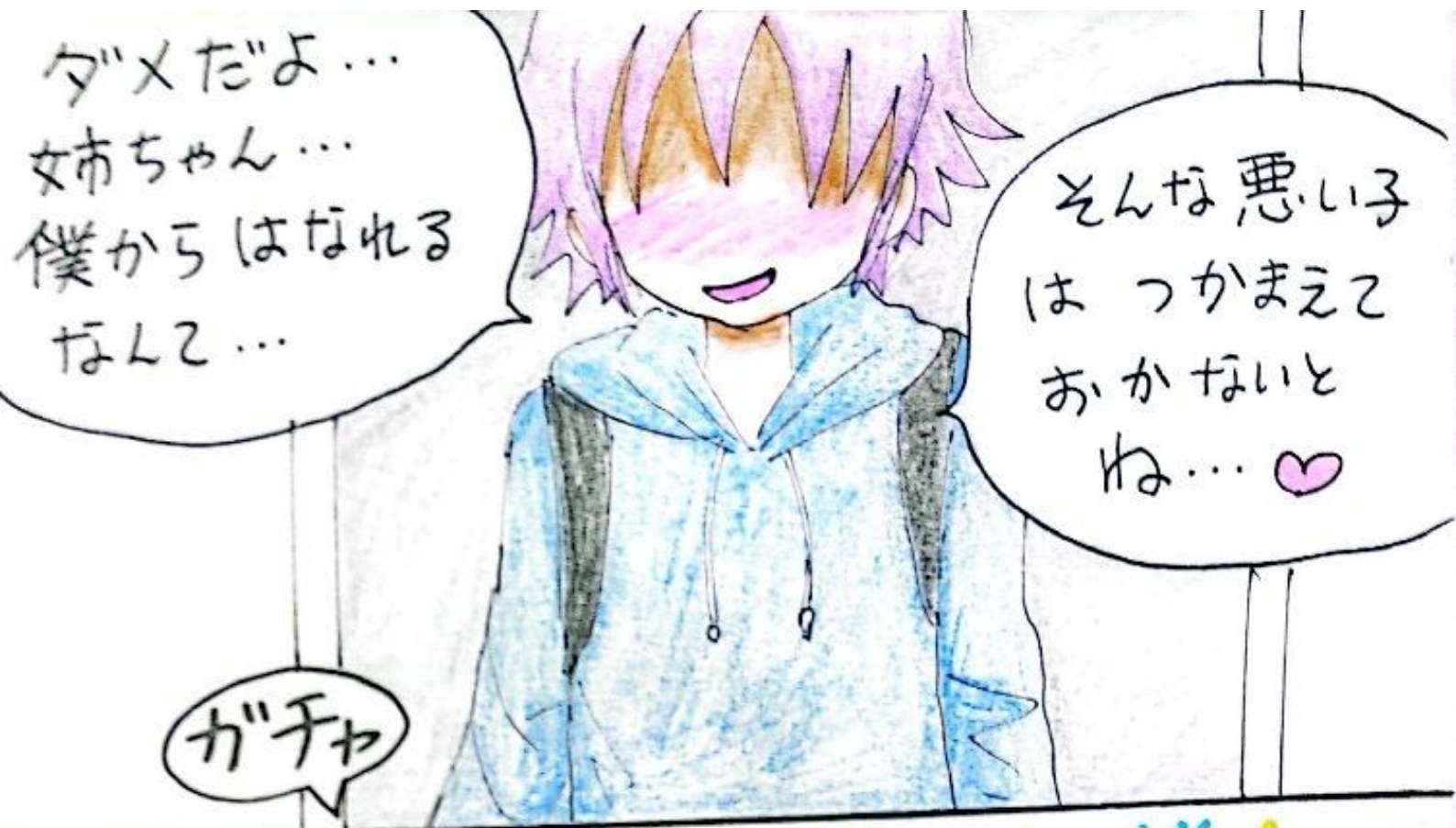
ピンホーン

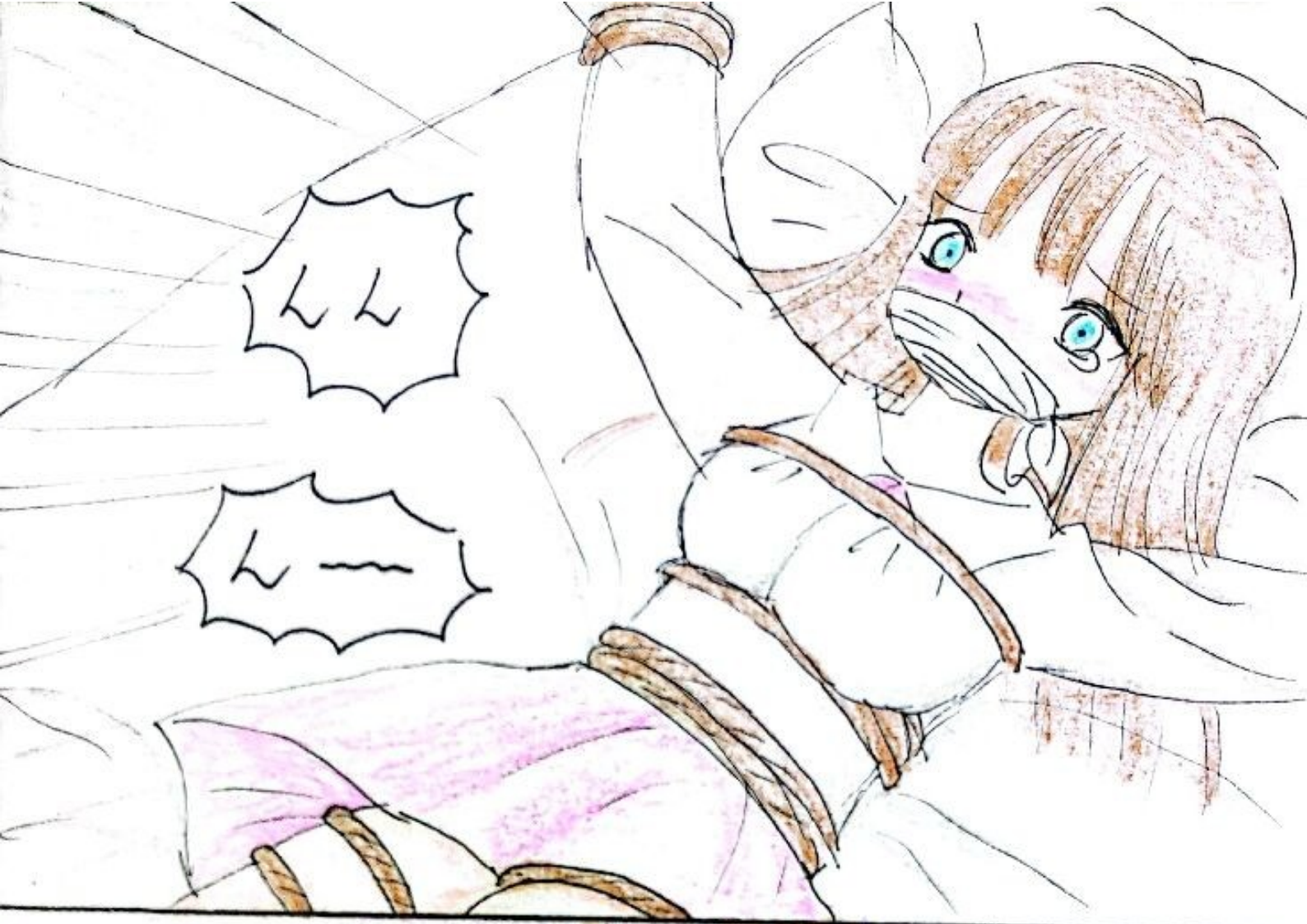


宅急便
で〜す

カチャ



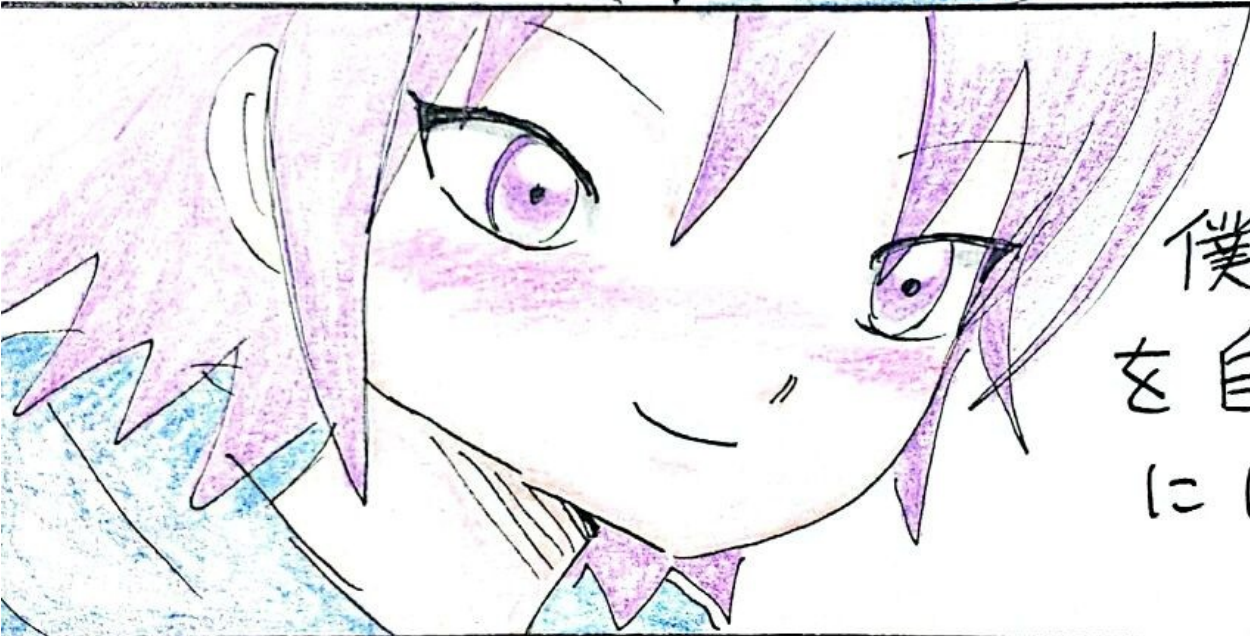




ここは
今日から
僕の家だから
僕が姉ちゃんのお世話を
してあげる



もうどこにも
行かないでね...♡



僕は姉ちゃん
を自分のもの
にした



その体も、視界も
姉ちゃんの目には
僕しか映らない...

おわり